

# 大学生の自閉症スペクトラム傾向と精神的健康との関連 —両親の自閉症スペクトラム傾向と親子関係要因に着目して—

坂田 侑奈\*・齊藤 彩\*\*

## Relation between autistic traits of college students and their mental health problem:

Focusing on parental autistic traits and parent-child relationship

SAKATA Yukina, SAITO Aya

### Abstract

The purpose of present study was to examine the relation between autistic traits in college students and their mental health problems focusing on parental autistic traits and positive and negative parent-child relationship. Questionnaire was completed by 348 college students. They rated their autistic traits, their mental health problems, their parent's autistic traits, and the positive and negative parent-child relationships. The results indicated that both maternal autistic traits and paternal autistic traits were related to college student's autistic traits, which then associated to their poor mental health. Also both maternal autistic traits and paternal autistic traits were associated to college student's mental health problems which was mediated by less positive parent-child relationship and more negative parent-child relationship.

Keyword : autism spectrum disorder, college students, parental autistic traits, parent-child relationship, mental health

### 問題と目的

自閉症スペクトラム障害 (Autism Spectrum Disorder: 以下ASDと表記する) は、社会的コミュニケーションの障害および行動や興味、活動の限局された反復的・常同的な様式を主要な症状とする発達障害である。ASDの人々は、主症状と環境との相互作用によってうつや不安などの二次的な精神医学的併存症を抱えやすいことが報告されている (杉山, 2005)。また、ASDの症状は連続的に分布されることが指摘されており (Constantino & Chaman, 2016)、診断閾下の自閉症スペクトラム障害的特性 (自閉症スペクトラム傾向) を持つ一般人口集団内の人々についても同様の二次的な精神的問題を抱えやすいことが先行研究で示されている (Lundström, Kollberg, Kerekes, Palm, Carlström, & Gillberg, 2011)。

ASDは、発達初期から症状がみられるため子どもの障害として研究が盛んに行われているが、近年、ASDあるいはその疑いを持つ一般の大学生に関しても注目が置かれるようになってきている。2017年に行われた、障害のある学生への修学支援に関する実態調査によると、ASDと診断のついている大学生は約2746名と、発達障害と診断された大学生の約6割を占めていることが示されている (独立行政法人日本学生支援機構, 2017)。

前述した先行研究でも示されている通り、診断に至らずとも、ASDの症状特性を軽度を示す大学生は数多く在籍していると考えられ、自閉症スペクトラム傾向を持つ大学生の実態調査や精神的健康に関していくつか検討

---

キーワード：自閉症スペクトラム障害、大学生、両親の自閉症スペクトラム傾向、親子関係、精神的健康

\*平成28年度生 人間発達科学専攻 \*\*お茶の水女子大学基幹研究院リサーチフェロー

が行われてきている。井上（2014）は、自閉症スペクトラム傾向の高い大学生と抑うつ症状との関連を示し、伊勢・十一（2014）は不安症状との関連を示している。また、高林・藤井（2013）、木立他（2014）においても、自閉症スペクトラム傾向の高さが精神的健康の低さに関連することを示している。またRosbrook & Whittingham（2010）は、自閉症スペクトラム傾向と抑うつとが直接関連することを示している。こうした先行研究によって大学生の自閉症スペクトラム傾向の高さは抑うつや不安といった精神的健康にネガティブな影響を与える可能性が示唆されてきているが、自閉症スペクトラム傾向の高さと精神的な不健康との関連について、そのメカニズムは十分に検討されていない。自閉症スペクトラム傾向の高さは、どのようなプロセスを経て、精神的健康へと関連しうるのであるか。

このプロセスに関して、本研究では、第一に、親の自閉症スペクトラム傾向が、子どもの自閉症スペクトラム傾向や精神的不適応に与える影響について着目し、検討する必要があると考える。ASDの発現には遺伝要因が大きく寄与していることが示されており（Hallmayer et al., 2011）、さらにASD的特性（自閉症スペクトラム傾向）の遺伝率は約57%と高い値が報告されていることから（Hoekstra, Bartels, Vreweij & Boomsma, 2007）、親の自閉症スペクトラム傾向が子どもの自閉症スペクトラム傾向の発現に影響を与える可能性は十分に考えられうる。

また、親の自閉症スペクトラム傾向が子どもの精神的不適応と関連すると推測される要因に親子関係の悪さや脆弱性が報告されており、van Steijn, Orelemans, Van Aken, Buitelaar & Rommelse（2014）は、ASDの子どもがASDの親から受ける受容感の低さを示している。また同じくvan Steijn et al.（2015）は、ASDの親とその子どもとの結束力の弱さ、感情表出の少なさ、対立の多さを示している。本邦においても、発達障害の親子の親子関係の本やASDの親をテーマにした書籍などにより、親子の情緒の関係性の脆弱さや衝突の多さなどが報告されている（宮尾, 2015; 星野, 2016）。こうした知見によって、親の自閉症スペクトラム傾向が子どもの自閉症スペクトラム傾向に影響を与え、親子関係において様々な問題を生じさせ、子どもの精神的健康に関連するという予測は本邦においても十分に立てられうるであろう。

以上の要因に着目して、本研究では、大学生の自閉症スペクトラム傾向の高さと精神的健康との関連メカニズムについて、親子の自閉症スペクトラム傾向の高さならびに親子関係の観点から明らかにすることを目的とする。仮説は以下の2つである。(1)両親の自閉症スペクトラム傾向の高さが子どもの自閉症スペクトラム傾向の高さを媒介して大学生の精神的不健康に関連するという仮説ならびに(2)両親の自閉症スペクトラム傾向の高さが親子関係の問題を媒介して大学生の精神的不健康に関連する、という二つの仮説について検討することとした。

## 方法

### 調査対象者と手続き

2015年10～11月に首都圏の大学に在籍している大学生448名（男性148名、女性300名）を対象に自記入式の質問紙を配布し、回収した。このうち、使用した尺度において欠損値のなかった348名（男性117名、女性231名）のデータを分析の対象とした。本調査の実施に際し、お茶の水女子大学の人文科学研究の倫理審査委員会の審査・承認を受けた。

### 測定尺度

**自閉症スペクトラム傾向** 母親、父親、大学生自身の自閉症スペクトラム傾向を測定するために、AQ-10（Allison, Auyeung & Baron-Cohen, 2012；AQ日本語版（若林, 2002）のうちの10項目）を使用した。項目例として、「同時に二つ以上のことをするのは簡単である」、「誰かと話している時に、相手の話の‘言外の意味’を理解することは容易である」などがあり、それぞれ「そうである（1）」「どちらかといえばそうである（2）」「どちらかといえばそうではない（3）」「そうではない（4）」の4件法で尋ねた。得点が高いほど自閉症スペクトラム傾向の高さを示す。本研究では、母親が.69、父親が.69、大学生自身の行動特性についてそれぞれ大学生が回答した。クロンバッチの $\alpha$ 係数は、母親が.69、父親が.69、大学生自身が.68であった。

**親子関係** 親子関係のポジティブな側面とネガティブな側面を測定するために、Network Relationships Inventory（NRI; Furman & Buhrmester, 1992）の日本語版（吉武・内海・菅原, 2014）のうち、「安全基地の追及」「感情的サポート」「葛藤」「対立」の4つの下位因子の各3項目、合計12項目を使用した。母親と父親との

それぞれの関係性について大学生が回答した。例えば「あなたは、お母様（お父様）にプライベートな問題への助けを求めることがどのくらいありますか」が「安全基地の追及」の項目例で、「お母様（お父様）は、あなたの活動に対してどのくらい応援してくれますか」が「感情的サポート」の項目例であり、それぞれの合計得点をポジティブな親子関係とした。また、「お母様（お父様）は、あなたと互いに怒ったり腹を立てたりすることがどのくらいありますか」が「葛藤」の項目例で、「あなたとお母様（お父様）は、互いにどのくらい口論していますか」が「対立」の項目例とし、2因子の合計得点をネガティブな親子関係の指標として算出した。それぞれ「ない、またはほとんどない（1点）」から「非常によくある・非常にそうである（5）」の5件法で尋ね、得点が高いほど、ポジティブな親子関係項目では、より親子関係の良さを示し、ネガティブな親子関係項目では、より親子関係の悪さを示す。クロンバックの $\alpha$ 係数は、母親とのポジティブな関係が.87、母親とのネガティブな関係が.92、父親とのポジティブな関係が.86、ネガティブな関係が.88であった。

**精神的健康** 大学生の精神的健康を測定するために、General Health Questionnaire (GHQ; Goldberg & Hillier, 1979) の短縮版であるGHQ-12 (Goldberg & Williams, 1988) の日本語版 (中川・大坊, 2013) を使用した。2～3週間の自分の精神的、身体的健康の状態を各項目（心配ごとがあつて、よく眠れないようなことは、いつもストレスを感じたことが、など）について0～4点の4件法で尋ね12項目の合計得点を精神的健康の指標として算出した。合計得点が高いほど、精神的健康における深刻度の高さを示す。クロンバックの $\alpha$ 係数は.85であった。

## 結果

### 各変数の記述統計量

Table 1 に、本研究で使用した各変数の平均値、標準偏差ならびに母親と父親の得点におけるt検定の結果を示した。自閉症スペクトラム傾向においては父親が有意に高く、ポジティブな関係において母親がより有意に高く、ネガティブな関係においては父親がより有意に得点が高かった。

Table 1 各変数の平均値と標準偏差 (N=348)

	平均値 (標準偏差)		t 値
	母親	父親	
母親 (父親) の自閉症スペクトラム傾向	18.41 (3.74)	19.44 (3.81)	3.83 **
母親 (父親) とのポジティブな関係	19.99 (5.90)	11.77 (5.00)	5.21 **
母親 (父親) とのネガティブな関係	13.85 (6.14)	17.42 (5.64)	12.93 **
大学生の自閉症スペクトラム傾向	18.93 (4.01)		
大学生の精神的健康	26.25 (6.11)		

\*\* $p < .01$

### 各変数の相関分析

各変数の関連を検討するために、相関分析を行った (Table 2)。母親の自閉症スペクトラム傾向は母親とのポジティブな関係に有意な負の相関、母親とのネガティブな関係に有意な正の相関が示された。また、父親の自閉症スペクトラム傾向においても、父親とのポジティブな関係に有意な負の相関、ネガティブな関係において有意な正の相関が見られた。一方、大学生の自閉症スペクトラム傾向は、母親ならびに父親とのポジティブな関係に有意な負の相関を示したが、母親ならびに父親とのネガティブな関係には有意な正の相関は見られなかった。また、大学生の自閉症スペクトラム傾向ならびに父親の自閉症スペクトラム傾向は大学生の精神的健康の低さとの有意な正の相関は見られたが、母親の自閉症スペクトラム傾向とは有意な相関が示されなかった。

Table 2 各変数の相関係数 (N=348)

	1	2	3	4	5	6	7
1 母親の自閉症スペクトラム傾向							
2 父親の自閉症スペクトラム傾向	.13 *						
3 大学生の自閉症スペクトラム傾向	.34 **	.23 **					
4 母親とのポジティブな関係	-.31 **	-.05	-.33 **				
5 母親とのネガティブな関係	.24 **	-.01	.04	-.05			
6 父親とのポジティブな関係	-.14 *	-.34 **	-.34 **	.66 **	-.03		
7 父親とのネガティブな関係	.04	.13 *	.06	-.02	.57 **	-.01	
8 大学生の精神的健康の低さ	.12	.16 *	.16 **	-.11	.14 *	-.16 *	.11

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

仮説モデルに対するパス解析

両親の自閉症スペクトラム傾向が、大学生の自閉症スペクトラム傾向と親子関係を媒介として大学生の精神的健康の低さへと関連する仮説について検討を行うためパス解析を行った。大学生の性別や同居の有無に関わらず、両親の自閉症スペクトラム傾向と大学生の自閉症スペクトラム傾向と親子関係、精神的健康との関連を検討するため、母親、父親とも、それぞれ性別、母親（父親）との同居の有無を統制して検討した。

初めに母親について検討したモデル (Figure 1) について、モデルの適合度は、 $\chi^2(5) = 5.95, p = .31, GFI = 1.00, CFI = .99, RMSEA = .02$ であり、良好な適合度が示された。第一に、母親の自閉症スペクトラム傾向の高さは、大学生の自閉症スペクトラム傾向の高さを媒介し、大学生の精神的健康の低さに関連することが示された。第二に、母親の自閉症スペクトラム傾向の高さは、ポジティブな親子関係の少なさとネガティブな親子関係の多さを媒介して、大学生の精神的健康との低さと関連している結果が見られた。この結果から、母親の自閉症スペクトラム傾向の高さを認識している大学生は、母親との親子関係をよりネガティブにとらえ、そのネガティブな親子関係が精神的健康の低さにも関連している可能性があることが示された。

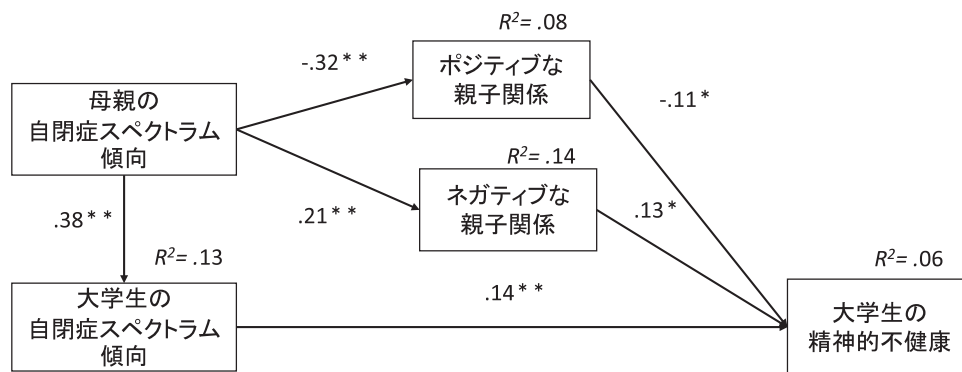


Figure 1 母親ならびに大学生の自閉症スペクトラム傾向, 親子関係, 大学生の精神的健康の関連

$\chi^2(5) = 5.95, p = .31, GFI = 1.00, CFI = .99, RMSEA = .02$

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$  性別, 母親との同居を統制, 有意なパスのみを表示

続いて、父親について検討したモデル (Figure 2) について、モデルの適合度は、 $\chi^2(5) = 1.97, p = .85, GFI = 1.00, CFI = 1.00, RMSEA = .00$ であり、良好な適合度が示された。第一に、父親の自閉症スペクトラム傾向の高さは、大学生の自閉症スペクトラム傾向の高さを媒介し、大学生の精神的健康の低さに関連することが示された。第二に、父親の自閉症スペクトラム傾向の高さは、ポジティブな親子関係の少なさとネガティブな親子関係の多さを媒介として、大学生の精神的健康との低さと関連している結果が示された。この結果から、母親の場合と同様に、父親の自閉症スペクトラム傾向の高さを認識している大学生は、父親との親子関係をよりネガティブにとらえ、ポジティブな親子関係の少なさを経験し、大学生の精神的健康の低さにも関連している傾向にあることが示された。



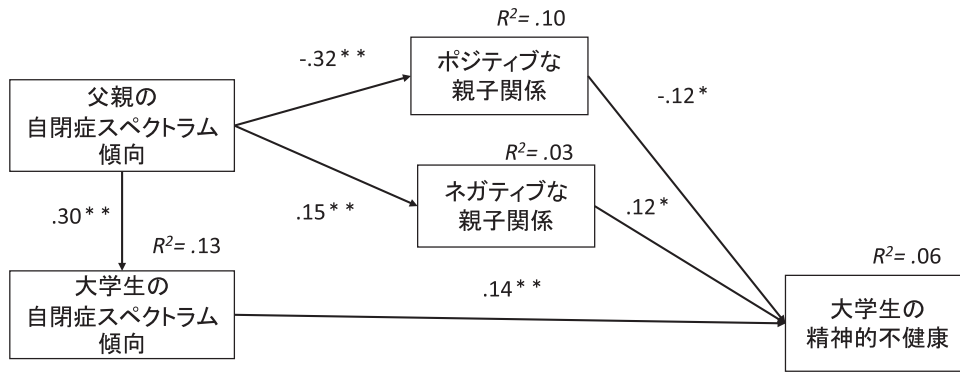


Figure 2 父親ならびに大学生の自閉症スペクトラム傾向, 親子関係, 大学生の精神的健康の関連  
 $X^2(5) = 1.97, p = .85, GFI = 1.00, CFI = .99, RMSEA = .02$   
 \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$  性別, 父親との同居を統制, 有意なパスのみを表示

### 考察

本研究は、一般大学生の自閉症スペクトラム傾向の高さと精神的健康との関連を、両親の自閉症スペクトラム傾向の高さと親子関係要因に着目して、関連メカニズムを実証的に明らかにすることを目的として検討を行った。

はじめに、各変数の相関分析を行った結果、大学生の自閉症スペクトラム傾向は、母親、父親ともに自閉症スペクトラム傾向と有意な正の相関がみられ、自閉症スペクトラム傾向の親子間の関連が示された。また、両親の自閉症スペクトラム傾向は、母親、父親ともにポジティブな親子関係の少なさ、ネガティブな親子関係の多さに有意に相関することが示された。また、大学生の自閉症スペクトラム傾向は、母親、父親とのポジティブな親子関係の少なさ、精神的健康の低さと関連が見られた。

続いて、本研究の仮説モデルにおけるパス解析の結果、母親、父親ともに良好な適合度が確認された。母親ならびに父親ともに、母（父）親の自閉症スペクトラム傾向の高さが、大学生の自閉症スペクトラム傾向の高さを媒介し、大学生の精神的健康の低さへ関連を示した。また、母（父）親の自閉症スペクトラム傾向の高さは、ポジティブな親子関係の少なさやネガティブな親子関係の多さに関連し、さらに大学生の精神的健康の低さに関連することが確認された。

第一に、本研究においても、大学生の自閉症スペクトラム傾向の高さが、精神的健康の低さと関連した結果は、前述した先行研究（高林他, 2013; 井上他, 2013; 伊勢・十一, 2014; 木立他, 2014; Rosbrook & Whittingham, 2010）と一致している。この直接的な関連に関して、問題解決スキルの乏しさや過去のからかい体験（Rosbrook & Whittingham, 2010）、社会的コンピテンスの低さ（Liew, Hong & Magiati, 2015）、自分の感情や要求を上手く表現できないことへのストレスの多さ（Donnellan, 1999）などに由来するものと考えられる。診断はついていなくとも自閉症スペクトラム傾向の高い大学生においても、軽度な症状特性を要因とした精神的不適応と関連する可能性が示唆された。

第二に、両親の自閉症スペクトラム傾向と大学生の自閉症スペクトラム傾向が関連した本研究の結果は、親の自閉症スペクトラム傾向が子どもの自閉症スペクトラム傾向の発現に影響する可能性を示唆し、また、両親の自閉症スペクトラム傾向の高さが大学生の自閉症スペクトラム傾向を媒介した結果は、親の自閉症スペクトラム傾向が、子どもの精神的健康にもネガティブな影響を与える可能性が示唆された。

第三に、両親の自閉症スペクトラム傾向の高さが、ポジティブな親子関係を生じにくくさせ、ネガティブな親子関係を生じやすくし、大学生の精神的不適応に関連した結果は、先行研究（van Steijn et al., 2014; 2015）や本邦における発達障害の親子関係の知見に関連して、親子間の情緒的関係性が乏しくなり、対立が生じやすいといった示唆を支持しているものと考えられる。

では、両親の自閉症スペクトラム傾向が高い場合において、両親の自閉症スペクトラム傾向が子どもの精神的

不適応に関連しないようにするためには、どのような介入が有効的であろうか。笠原他（2008; 2009）は、自閉症スペクトラム傾向をもつ母親の、育児上の困難として、子どもとの対人相互関係の困難、想像性の欠如、強迫的こだわりを報告している。また、石川（2013）も子どもがいる生活への変化の適応の難しさ、養育行動を実施する際の不器用さなどを指摘しており、このような育児困難を背景として、不適切な養育態度に繋がる場合があることが示されている。さらに、岩田他（2016）は、自閉症スペクトラム傾向をもつ母親が困難さを感じるのは妊娠期から始まり、乳幼児期の子育て期に最も高くなることを明らかにしており、この時期に母親のこうした育児困難感を周囲が認知し、母親自身の特性に気づかせ、育児支援につなげるべきであることを報告している。また、宮尾（2015）は、家族メンバー全員を対象にした家族療法や親子並行療法が有効であると示しており、家族全体へ介入することによって、父親にも自閉症スペクトラム傾向がある場合でも、同様に支援が可能となるだろう。乳幼児期の子育て期からこうした介入を受ける事によって、両親の自閉症スペクトラム傾向の気付きや養育態度の悪化を防ぎ、親子関係の安定につながるのではないだろうか。また、乳幼児期のみならずその後の発達段階においても、切れ目のない支援が重要となり、今後、よりいっそう自閉症スペクトラム傾向がある親の精神的健康と子どもの精神的健康を保つことができるような支援プログラムが開発されていく必要があるだろう。

以上の通り、本研究において、大学生の自閉症スペクトラム傾向と精神的健康の関連メカニズムの検討に際し、大学生の自閉症スペクトラム傾向と親子関係が媒介要因となることが示された知見は、今後、自閉症スペクトラム傾向の高い子どもの精神的健康を検討する場合において、両親の自閉症スペクトラム傾向、それに付随する親子関係についても、詳しく検討していく必要性が示唆されたといえるであろう。また、今後、自閉症スペクトラム傾向の高い大学生の支援において、大学生活や就労支援のみならず、家族関係や精神医学的併存症の問題などさまざまな側面を視野に入れた包括的なケアが重要になってくるであろう。

最後に、本研究の限界として、本研究では、第一に、本研究は、大学生自身が両親の自閉症スペクトラム傾向、親子関係を評定している点が挙げられる。今後は、大学生自身、両親の三者による自閉症スペクトラム傾向、親子関係を評定し、親子の自閉症スペクトラム傾向とさまざまな関連を、より深めて検討を行なうことが重要である。第二に、本研究は横断研究であり、因果関係については実証できていない点が挙げられる。今後は、縦断研究によって、因果関係を特定していくと同時に、大学生のみならず、さまざまな発達段階に応じて、検討を行っていくことが必要である。」

## 引用文献

- Allison, C., Auyeung, B., & Baron-Cohen, S. (2012). Toward brief "red flags" for autism screening: the short autism spectrum quotient and the short quantitative checklist in 1,000 cases and 3,000 controls. *Journal of the American Academy of Child & Adolescent Psychiatry*, 51(2), 202-212.
- Constantino, J. N., & Charman, T. (2016). Diagnosis of autism spectrum disorder: reconciling the syndrome, its diverse origins, and variation in expression. *The Lancet Neurology*, 15(3), 279-291.
- 独立行政法人日本学生支援機構 (2017). 障害のある学生の修学支援に関する実態調査.
- Donnellan, A. M. (1999). Invented knowledge and autism: highlighting our strengths and expanding the conversation. *Journal of the Association for Persons with Severe Handicaps*, 24(3), 230-236.
- Goodman, S.H., Erin, C.T., Corey, L.H., Arin, M.C., & Myoyeon, H. (2011). Measuring children's perceptions of their mother's depression: The children's perceptions of others' depression scale-mother version. *Journal Of Family Psychology*, 25(2), 163-173.
- Hallmayer, J., Cleveland, S., Torres, A., Phillips, J., Cohen, B., Torigoe, T., & Lotspeich, L. (2011). Genetic heritability and shared environmental factors among twin pairs with autism. *Archives of general psychiatry*, 68(11), 1095-1102.
- Hoekstra, R. A., Bartels, M., Verweij, C. J., & Boomsma, D. I. (2007). Heritability of autistic traits in the general population. *Archives of pediatrics & adolescent medicine*, 161(4), 372-377.
- Hoffman, C. D., Sweeney, D. P., Hodge, D., Lopez-Wagner, M. C., & Looney, L. (2009). Parenting stress and closeness: Mothers of typically developing children and mothers of children with autism. *Focus on Autism and Other Developmental Disabilities*, 24(3), 178-187.
- 星野仁彦 (2016). 『発達障害に気づかない母親たち』 PHP研究所
- Hurley, R. S., Losh, M., Parlier, M., Reznick, J. S., & Piven, J. (2007). The broad autism phenotype questionnaire. *Journal of autism and developmental disorders*, 37(9), 1679-1690.

- 井上貴雄 (2014). 児童・青年期の抑うつ症状, 躁症状, および自閉傾向に関する臨床的・疫学的研究.
- 伊勢由佳利・十一元三 (2014). 自閉症スペクトラム障害およびその傾向をもつ成人における不安を中心とした心身状態とストレスに関する研究. *児童青年精神医学とその近接領域*, 55(2), 173-188.
- 石川道子 (2013) 「発達障害のある人の子育て支援」『発達障害医学の進歩』25, 47-54.
- 岩田千亜紀, 鈴木優子, 藤岡孝志, 矢部正治, 大曾根邦彦, 趙正祐, ... & 安瓊伊. (2016). 高機能自閉症スペクトラム障害 (ASD) 圏の母親への子育て支援に関する効果的プログラムモデル開発. *社会事業研究*, 55, 108-113.
- 笠原麻里・小泉智恵・辻井弘美ほか (2008) 「軽度発達障害者の育児支援に関する研究—育児困難予防のための妊産期からのとりくみ」(平成20年度厚生労働科学研究費補助金)『ライフステージに応じた広汎性発達障害者に対する支援のあり方に関する研究: 支援の有用性と適応の評価及び臨床家のためのガイドライン作成分担研究報告書』, 85-91.
- 笠原麻里・小泉智恵・各務真紀ほか (2009) 「軽度発達障害者の育児支援に関する研究—育児困難予防のための妊産期からのとりくみ」(平成21年度厚生労働科学研究費補助金)『ライフステージに応じた広汎性発達障害者に対する支援のあり方に関する研究: 支援の有用性と適応の評価及び臨床家のためのガイドライン作成分担研究報告書』, 115-118.
- 木立明甫・長根昌代・大川佳代子・関川悠子・今莉奈・松田侑子 (2014). 大学生における自閉傾向と精神的健康の関連: 居場所の心理機能を考慮して. *弘前大学大学院教育学研究科心理臨床相談室紀要*, 11, 16-27.
- Liew, S. M., Thevaraja, N., Hong, R. Y., & Magiati, I. (2015). The relationship between autistic traits and social anxiety, worry, obsessive-compulsive, and depressive symptoms: specific and non-specific mediators in a student sample. *Journal of autism and developmental disorders*, 45(3), 858-872.
- Lundström, S., Chang, Z., Kerekes, N., Gumpert, C. H., Råstam, M., Gillberg, C., ... & Anckarsäter, H. (2011). Autistic-like traits and their association with mental health problems in two nationwide twin cohorts of children and adults. *Psychological medicine*, 41(11), 2423-2433.
- 宮尾益知 (2015). 『発達障害の親子ケア 親子どちらも発達障害だと思ったときに読む本』講談社
- Montes, G., & Halterman, J. S. (2007). Psychological functioning and coping among mothers of children with autism: A population-based study. *Pediatrics*, 119(5), e1040-e1046.
- 中川泰彬・大坊郁夫 (2013). 日本版GHQ 精神健康調査票手引 (増補版) 日本文化科学社.
- Rosbrook, A., & Whittingham, K. (2010). Autistic traits in the general population: What mediates the link with depressive and anxious symptomatology?. *Research in Autism Spectrum Disorders*, 4(3), 415-424.
- 高林大輝・藤井靖 (2013). 自閉症スペクトラム傾向の高さが精神的健康度と被援助志向性および大学生生活に及ぼす影響. *早稲田大学臨床心理学研究*, 12, 45-54.
- van Steijn, D. J., Oerlemans, A. M., Van Aken, M. A., Buitelaar, J. K., & Rommelse, N. N. (2014). The reciprocal relationship of ASD, ADHD, depressive symptoms and stress in parents of children with ASD and/or ADHD. *Journal of autism and developmental disorders*, 44(5), 1064-1076.
- van Steijn, D. J., Oerlemans, A. M., van Aken, M. A., Buitelaar, J. K., & Rommelse, N. N. (2015). The influence of parental and offspring autism spectrum disorder (ASD) and attention-deficit/hyperactivity disorder (ADHD) symptoms on family climate. *Journal of Child and Family Studies*, 24(7), 2021-2030.
- 吉武直美・内海緒香・菅原ますみ (2014). 成人期の対人ネットワークの質の検討—日本語版Network Relationships Inventory を用いて—日本心理学会第78回大会発表論文集, 107.

